

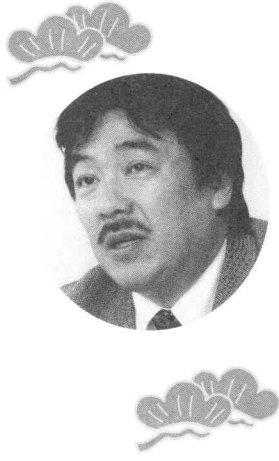


NPO法人
日本アレルギー友の会
〒135-0002
東京都江東区住吉2-6-5
インテグレート村上3F
TEL 03 (3634) 0865
FAX 03 (3634) 0850
http://www.allergy.gr.jp/
mail j-allergy@nifty.com
郵便振替 00130-6-109985
編集発行人 堀内 繁

2011年元旦

ご挨拶

東京通信病院皮膚科部長
常任顧問 江藤 隆史



更なる発展へ

理事長 堀内 繁

新年明けましておめでとうございます。
昨年は40周年事業の締め集大成を発行



友の会の会員のみなさま、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、ぜんそくとアトピー性皮膚炎の本
が友の会から上梓されたり、朝日新聞の「患
者を生きる」というコラムでは、友の会のス
タッフの瀬戸口(荻野)さんが登場し、本会
のことを紹介してくれたり、アレルギー学会
などでは、友の会の事務局長の丸山さんがコ
アスピーカーとして活躍されたり、いろい
ろな活動が活発に行われました。思い出せば、
ずいぶんいろいろなことがありました。ス
タッフのみなさんは、本当にお疲れさまでし
た。

し、その反響が全国から寄せられました。ま
た、年2回の講演会も、常任顧問坂本芳雄先
生と江藤隆史先生のご協力のもと、講師の先
生方の熱演とQ&Aもあり、盛会裡に開催す
ることができました。そして、事務局長が学
会などの講師として招かれ患者の立場から講
演をする機会にも恵まれ、それに加え、副理
事長が積極的に各界(製薬界・医師界・看護
界など)の会合・式典に出席して、多方面か
ら認められる会へと基盤を固めることができ
ました。
そのほか、プロのスキルを提供してくれる
NPO法人サービスマンランドによるホーム

◆目次◇

- 講演会リポート.....(2)
- 成人ぜんそくQ&A①.....(3)
-(4)
-(5)
- アトピー性皮膚炎Q&A②.....(6)
-(7)
- 顧問の先生からのメッセージ⑬.....(8)
- 医師向けセミナーで
患者の視点からの意見を発表.....(8)

今年も全国の悩めるアレルギー疾患の患者
さんたちを元気にするために、ますます頑張
りましょう。標準治療の普及、あやしい民間
療法の撲滅を目指して、今年はどうな活動が
なされるか、楽しみな気持ちで新年を迎えて
います。

昨春秋、私は東京都医師会の企画による保
育園や幼稚園のスタッフの方たちのための講
演会で、食物アレルギーのお話をしてくまし
た。真のアナフィラキシーという激しい症状
が出て、救急の処置が必要となる子どもたち
は、完全な除去食が必須なの言うまでもあ
りません。参加された方々からも、そのよう
ページリニユールが完成、イオンの黄色い
レシート活動は日常生活に浸透、新聞・テレ
ビなどマスコミからも複数取材があり掲載・
オンエアされ、当会の啓蒙活動はますます広
がりを見せております。

さて、本年は「更なる発展へ」を合言葉に、
平成24年のNPO法人化10周年を目前に、当会
はより社会的信頼性のある認定NPO法人化
または公益社団法人化を目指すことになりま
した。

当会をご支援くださるすべてのみなさまに、
本年も変わらぬご協力を賜りますようお願い
申し上げます。

な児童を扱って苦労されているお話を伺いま
したが、標準治療をしっかりとやっていけば食
物の制限など必要ない児童もたくさんいるよ
うで、対応に難渋しているとのことでした。
小児科の先生方の意見も最近では、過剰な除去
食は慎むべきという方向に向かってきていま
す。むしろ、皮膚科の一部の先生がまだ過剰
な食物除去を推奨しているのでは、とも言わ
れています。食物アレルギーの分野も新時代
を迎えつつあります。

皮膚科の最近のトピックスは、「お茶石け
ん」に含まれる小麦成分によるアナフィラキ
シーです。小麦に対するアレルギーが、実は
皮膚への接触によって成り立つ(感作を引き
起こす)という事例です。児童の食物アレル
ギーも、荒れた肌から食物が接触すること
起こる可能性が強いのではと推測されていま
す。その考えから、スキンケアによる荒れた
肌の改善は、アレルギーの予防にもとても重
要であるといえるでしょう。小麦のアレル
ギーを疑われているあなた。お茶石けんを
使っていませんか？

日本アレルギー友の会は、全国のアレル
ギーで悩んでいる方々に元気を与えてくれま
す。ご親族やお友達にもぜひ入会をお勧めし
てください。では、今年も元気に明るくやっ
ていきましょう。

